

# やなけん!

台東区立谷中小学校 研究だより

## 第10号

令和4年 10月20日(木)  
台東区立谷中小学校  
研究推進委員会

**研究主題** よく考え工夫する児童の育成 ～体育科におけるICTの活用を通して～

## 第5回研究授業報告!

【日時】10月12日(水) 5校時 【対象】6年2組33名

【授業者】高橋 大悟教諭 【領域】陸上運動

【単元名】走り高跳び

本単元では、まず、運動量を確保するために「ドリルタイム」「アップタイム」「分析タイム」「記録タイム」という学習過程を設定し、その時間の目的を意識できるようにしました。また、思考力を高めるために、児童同士がタブレットで動画を撮影し、自分の動きを分析して課題を見付けられるようにしました。指導と評価の一体化を実現するためには、児童個人にめあてを設定させ、そのめあてに応じた指導ができるようにしました。



### 本時の授業の様子(授業評価シートより)

#### 研究の視点① 運動量の確保

- ・先生の指示が少なく、児童がてきぱきと動いていた。
- ・音楽が効果的に使われて、流れがスムーズだった。
- ・運動量はグループによって差があった。平均的には高い運動量だった。

#### 研究の視点② 思考力を身に付けさせるためのICTの活用

- ・タブレットは活用していたが、運動量確保とICT活用のバランスが難しいと感じた。
- ・学習グループをどのように編成したらよいか難しかった。個人のめあてを確認し合うとよいと感じた。

#### 研究の視点③ 指導と評価の一体化

- ・本時まで知識・技能で身に付けさせたいキーワードをきちんと抑えて本時を行えば、児童の話合いがより活発になったと感じた。

#### その他

- ・場の設定の仕方が大変参考になった。
- ・ゴムから竹パーに段階を変えるのが効果的だった。
- ・ノモグラムを初めて知った。参考にしたい。

	平均値
1. 児童の運動量は十分に確保されていた。	4.1
2. 教師は場面展開をスムーズに行っていた。	4.7
3. 児童の移動や待機の場面が少なかった。	4.5
4. 児童はよく考えて学習していた。	4
5. 児童は動きを工夫して運動していた。	4.1
6. 児童の思考力を高めるためにICTの活用は有効であった。	3.8
7. 児童は主体的に学習に取り組んでいた	4.7
8. 児童は楽しく学習していた。	4.7
9. 児童は授業の約束事を守っていた。	4.8
10. 教師は児童に適切な言葉かけをしていた。	3.9

### ◎成果と▲課題

- ◎学習過程を工夫したり、コーディングシートを活用したりしたことにより、運動量を十分に確保することができた。
- ◎児童同士がタブレットで動画を撮影したことにより、自己の動きを客観的に確認することができた。(鏡の効果)
- ◎授業の初めにテレビで良い動きや悪い動きを共有し、ポイントを確認したことにより、児童の理解や思考を高めることができた。
- ▲個人のめあてを児童同士で共有させたり、教師がめあてに沿った言葉かけをしたりできるとよりよく考え工夫することができる。  
「～が…だね。」「～を…しよう。」という言葉も児童も言えるようになってよい。(例:「足が下がっているね。」「目線を上げよう。」)
- ▲児童が授業内でタブレットの動きを見て話し合うのは、効果があまり高くなかった。

### 授業者(高橋 大悟教諭)より

自分の映像から課題を見つけることを中心に授業を構成しましたが、全員で動画を観る活動により授業のテンポが損なわれたことを感じました。また現タブレット性能では再生効率や再生速度などの課題があるため、今後は遅延再生機能を検討したいです。ノモグラムを用いた点数化は児童の目標設定・チームのモチベーション向上に上手く作用したと感じます。個別の目標設定の活用を他の陸上運動でも行っていきたいと思います。授業を御参観いただきありがとうございました。